

# 2018年度 事業報告

## 1、 総括

○NHKニュースウオッチ9での報道により、大手凸版印刷(株)との関係ができ、元力士今岡凛太郎 更にはその父親 今岡英樹(式守伊之助)のルートがひろがり、マスコミでの露出も増え、アートの拡販、利用者の増大など売り上げの増大につながった。

凸版印刷(株)のルートは大きく、6万人以上の社員がお得意先に当法人のアートを売り込んでくれる理想的なスタイルがはじまった。そのことにより、アートのビジネス化への展開、実績づくりに大いに役立った。

○また、地元出身の洋画家園山幹生氏との出会いから、利用者のレベルアップ、新極美術協会との協力体制がはじまり、著名人との出会いがうまれさらなる事業拡大につながった。

○24時間テレビから福祉車両の提供に選ばれ、車いすの対応、アートの運搬に大いに役立つ車の入手は極めて今後の事業拡大に役立つ朗報である。

\*島根県の監査に合格、12月18日 県から監査官などが来所、無事終了し、大きな課題もなかった。準備が周到にできたせいである。

○アートタウンプロジェクトからの受注拡大へ

伊藤医院の壁画にはじまり、山口建設(株)の西代橋工事現場でのアートによって松浦造園(株)の松江城石垣、田中工業(株)の斐伊川土手工事現場での壁画アートと売り上げが繋がっている。今後さらなる拡大に努力したい。建築業界への浸透が徐々に広がってきた。

○ハーブ事業による安定収入 西部浄化センター横の太陽光発電所の管理による大きな定期的な収入をえることができ、それによって安定した障がい者への給与が支払える状況になった。今後、受注先への配慮に留意し、安定した協力体制を構築したい。

## 2、 組織の状況

### ① 2018年度末会員数

正会員 52 賛助会員 2 計 54

### ② 理事数・理事会開催数

理事 7人 監事 2人 開催数 1回

## 3、 事業実施の成果

### A) 就労継続支援B型事業所“わんぱく大使館”事業

【平成30年4月1日(指定)】(2018年4月1日) 現在 26名(定員20名)

平成24年4月1日から行ってきた障害福祉サービス事業(B型事業所)

現在利用者数 26名 定員20名を超える規模にまで成長した。

心身等の具合で欠席がちな利用者も多いため、安定した施設利用につながるよう、きめ細やかなサービス提供ができるよう今後も努めていきたい。

## 利用者数の状況

定員20名

月度	(2018年4月～2019年3月)											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
利用者数	26	26	25	23	24	24	24	24	24	26	26	26
月平均利用	17	17	18	18	18	19	19	19	19	20	22	21
充足率 (%)	85	85	90	90	90	95	95	95	95	100	110	105

## 就労支援事業収入と平均工賃額

月度	(2018年4月～2019年3月)											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
就労支援事業 収入 (千円)	286	297	363	313	305	610	626	332	306	309	312	316
平均工賃 (千円)	13	13	15	16	16	16	19	25	16	14	14	26

## B) アート展の開催

- 1、一畑百貨店60周年記念アート展：5F四季の彩り館での開催。  
8月23日～29日「夢を形に・・・～60の夢・・・一畑百貨店60周年によせて～」として開催。
- 2、極美展：9月28日～10月5日（東京美術館）出展  
入賞者 三原俊弘、今岡凜太郎、野々村淳市、高橋百合子、藤田康弘、  
5名受賞
- 3、お寺アート展：11月16日～12月5日 京都長楽寺での開催 扇子アート実施
- 4、第8回国際チャレンジドアートエキスポ2018開催。  
10月26、27、28、3日間  
特徴は新極美術協会より、著名人のアートが協賛出展となり、山本陽子、  
城戸真亜子、凸版印刷からも数多くのアート作品が並び、凸版からビジネス  
提案としてペットボトルの展示があった。  
ギャラリー： 810名 コンサート： 270名
- 5、松浦造園：アート看板（松江城の四季） 12月25日
- 6、田中工業：アート看板（ヤマタノオロチ） 3月13日
- 7、伊藤医院 駐輪場壁画アート 年2回実施（冬・夏）
- 8、可能性アートプロジェクト 凸版印刷株の新入社員向けの教育アート展開催、  
2019年3月25日から1か月間 凸版ホールでの開催 12月11日納品

## C) 計画相談支援および障がい児相談支援事業

【平成27年9月 1日（指定）】（2016年9月1日） 出雲 / 現在 8名

【平成28年10月24日（指定）】（2017年10月24日） 米子 / 現在 122名

利用者の生活全般をプランニングする重要な事業である。利用者の確保もさることながら、相談支援専門員一人一人が行う支援の質を向上できるよう今後も努めたい。

## 利用者数の状況

## ・ 出 雲

月度	(2018年4月～2019年3月)											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
利用者数	9	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
サービス提供実施回数	8	8	8	7	8	7	6	6	9	7	7	7

## ・ 米 子

月度	(2018年4月～2019年3月)											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
利用者数	95	100	102	103	107	108	109	112	114	117	118	122
サービス提供実施回数	15	16	12	17	18	15	21	20	9	10	5	9

## D) 共同生活支援“わんぱくハウス”事業

【平成29年4月1日（指定）】（2018年4月1日） 現在 3名（定員6名）

障がいがある人たちが安心して生活できる場として、平成29年4月1日からスタート。定員6名ではあるが現在3名、（うち1名が県外）。経営の早期安定につながるよう利用者の獲得に努めるとともに、利用者支援の充実につながるよう職員の質も高めたい。

## 利用者数の状況

## 定員6名

月度	(2018年4月～2019年3月)											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
利用者数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
月平均利用	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
充足率 (%)	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50

## E) わんぱく学園事業

## 【出雲市からの委託事業】

共生の町づくりの普及、そして、障がい者の情報 県内の障がい者グループとの情報交換や相談の充実の場として年間40回（延べ300名が参加：主に障がい児が参加、遠方より年配者も参加）行うことができた。

No.4